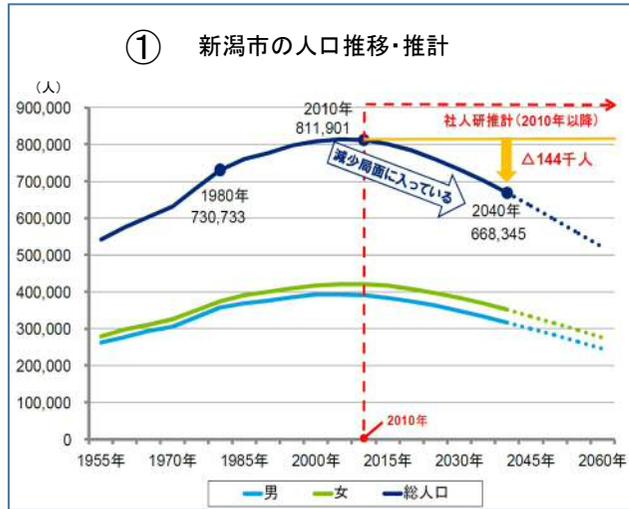
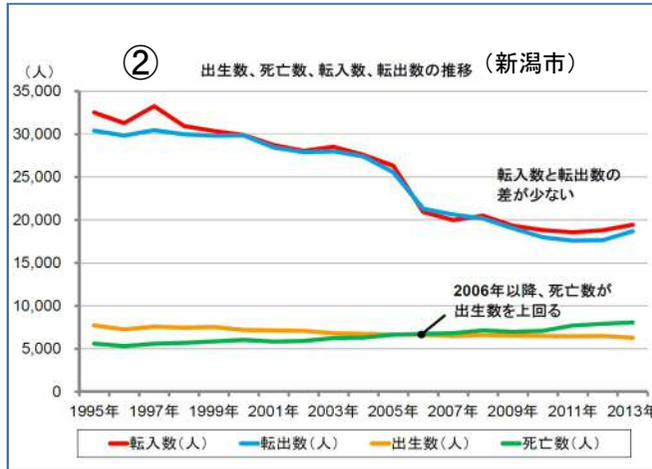


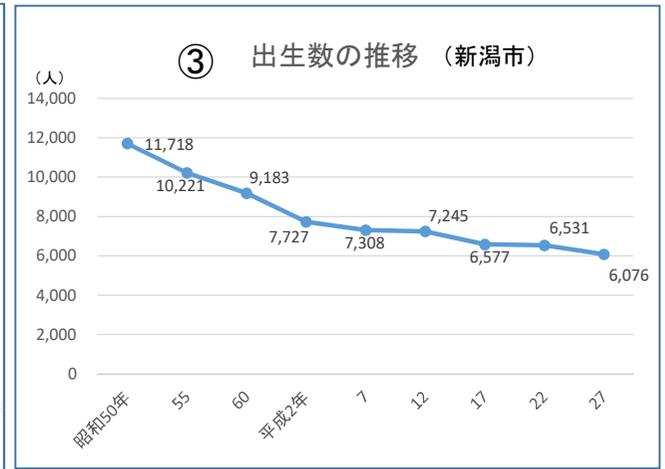
新潟市の人口減少と子育て環境について



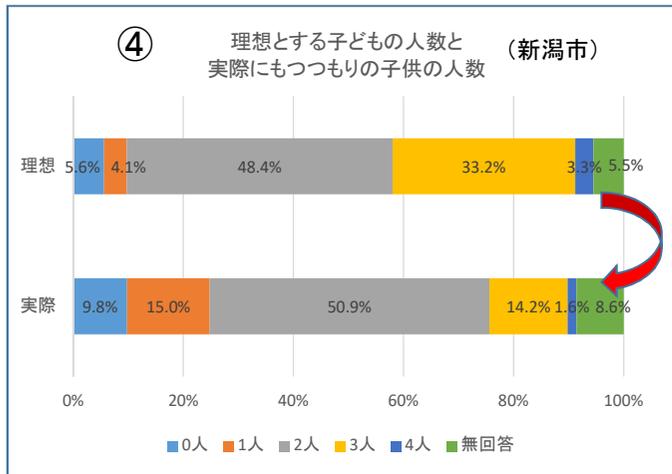
●2010年から減少局面に入っており、2040年には、現在の約80万人から約67万人にまで減少すると考えられる。



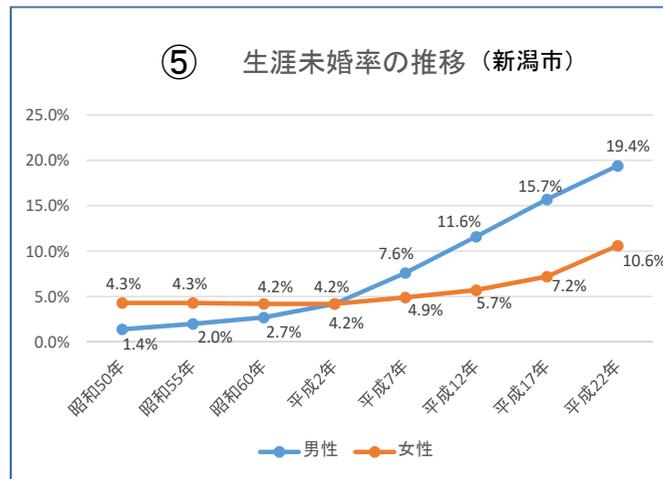
●転入数と転出数の差はほとんど見られない。  
●2006年以降は死亡数が出生数を上回っている。



●平成27年の出生数は、昭和50年の約半分の6,000人にまで減少している。

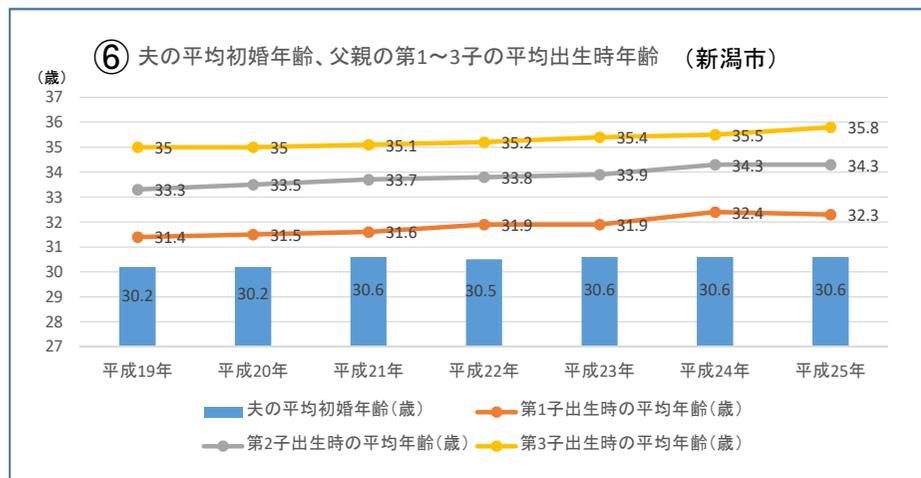


●理想とする子どもの数・実際にもつ子どもの数共に2人が最も多い。  
●理想とする子どもの数が3人以上の割合も多いが、実際は希望する人数の子どもを持つことができていないと言える。

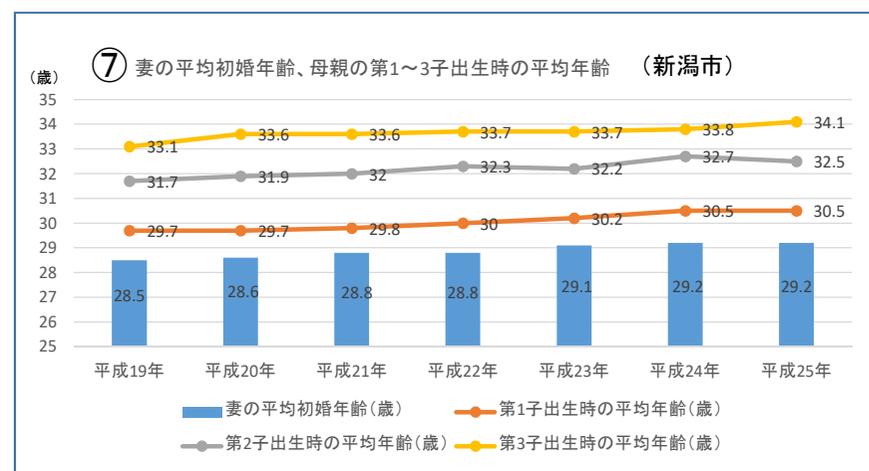


●男性の生涯未婚率は、平成に入ってから急激に上昇している。  
●平成22年の男性の生涯未婚率は約20%。  
●平成22年の女性の未婚率は約10%。

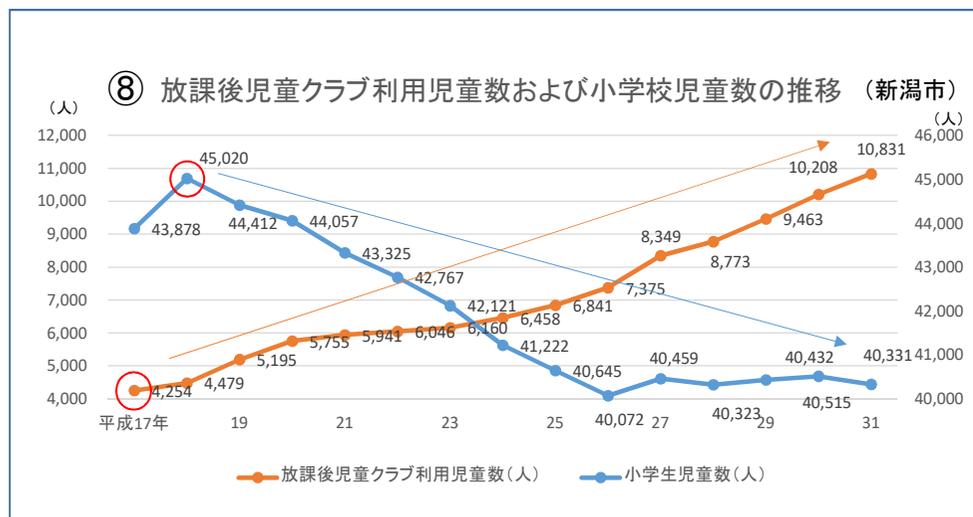
<出典>  
・新潟市人口ビジョン  
・新・すこやか未来アクションプラン  
(新潟市子ども・子育て支援事業計画)



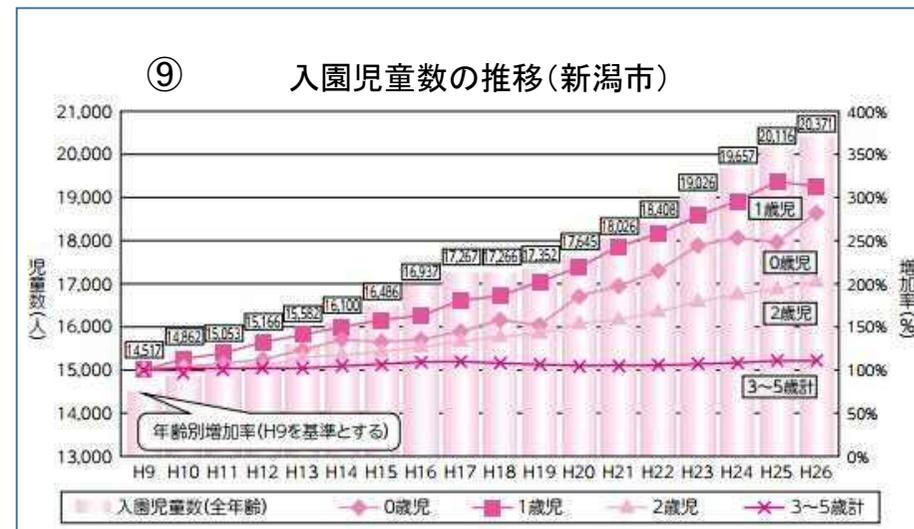
- 夫の初婚年齢は30歳を超えていると分かる。
- 第1子出生時の平均年齢は32歳を超えてきている。
- 第1～3子出生時の平均年齢は、いずれも高くなってきている。



- 妻の平均初婚年齢は29歳を超えてきている。
- 第1子出生時の平均年齢は概ね30歳である。
- 夫のデータと比較すると、平均初婚年齢・第1～3子出生時の平均年齢が低いことが分かる。



- 小学生児童数はピーク時の約45,000人から約40,000人に減少している。
- 放課後児童クラブ利用児童数は、約4,000人から10,000人以上にまで増加している。



- 入園児童数は増加している。
- 0～2歳の児童数は増加しているが、3～5歳の児童数は横ばいである。

<出典>